

エコドライブ活動コンクールの募集のご案内

当財団では、今年度も「エコドライブ活動コンクール」の参加者を募集中です。
優れた取り組みを行っている事業者を表彰し、その取り組み内容を紹介することによりエコドライブの更なる普及を目指しています。最も優れた取り組みの事業者には、国土交通大臣賞(事業部門)、環境大臣賞(一般部門)が授与される予定です。
今年度は、事業部門(緑ナンバー)、一般部門(白ナンバー)、ユニーク部門(独自の取り組みをしているさまざまな団体やグループなど)の3部門に加えて、新たに『支援ビジネス部門』が行われます。
詳細・申し込みは、同コンクール公式ホームページに最新の情報が掲載されています。
なお、2021年度のエコドライブ活動コンクール優秀取組事例集も同ホームページに掲載されています。



2022年度エコドライブ活動コンクール公式ホームページ

<https://www.ecodrive-activity-concours.jp/>



【応募期間】 2022年5月9日(月)～7月8日(金)

※新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置等に伴い
応募締切が延長される可能性があります。同コンクール
公式ホームページに最新の情報が掲載されています。

【表 彰】国土交通大臣賞(事業部門) 1件
環境大臣賞(一般部門) 1件
審査委員長特別賞(支援ビジネス部門/エーク部門)数件
これ以外にも、優秀賞、優良賞が授与される予定です。

運輸・交通と環境2022年版を発行しました

本書は、環境問題に関心のある人や、実践的な活動に携わっている人たちに活用していただくことを願い、運輸・交通分野における環境問題(地球温暖化、排出ガス、廃棄物・リサイクル、騒音、海洋汚染等)の現状とその対策について、包括的に情報を提供するものです。当財団や自治体、市民団体、企業等の取り組みも紹介しています。

入手希望の方は当財団ホームページにて申込方法をご確認ください。

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>



第72号：2022年5月発行

公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団 〒102-0076 東京都千代田区五番町10番地 五番町KUIビル3階

TEL: 03-3221-6672 (代表 総務部) 03-3221-6673 (バリアフリー推進部) 03-3221-7636 (グリーン経営業務室) 03-3221-7637 (交通環境対策部)
FAX: 03-3221-6674

当財団ホームページ:

<http://www.ecomo.or.jp>



Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

▶ 特集
○広報誌「ECOMO」…▶ これまでの歩み
○「だれでも行ける魅惑の船旅! ~奄美群島へ~」

▶ 活動案内 ▶ コラム
バリアフリー推進部/グリーン経営業務室/交通環境対策部

公益財団法人
交通エコロジー・モビリティ財団

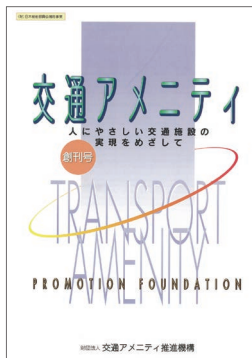
「クイーンコーラルクロス」デッキからの与論島風景

広報誌「ECOMO」・・・これまでの歩み

「ECOMO」は70号以上続いており、当財団の設立当初から発行している広報誌です。
本誌は年に3回発行し、運輸およびその関連分野における交通バリアフリーの推進と環境対策の推進に関する情報や、当財団の活動案内・取り組み・イベント告知などの情報をお届けしています。
そんな「ECOMO」を皆さまにより知っていただきたく、これまでの歩みを簡単にご紹介します。

年代

1995 「交通アメニティ」が創刊



エコモ創刊号

急速に進む高齢化社会への対応と、障害のある方々の自立と社会参加が強く求められていましたが、公共交通機関のバリアフリー化はなかなか進まず、また一方でバリアフリー化された施設、車両についてのPRや啓発も十分ではありませんでした。
そこで、バリアフリーの必要性に対する理解を深めてもらうことや、当財団の活動案内・支援取り組みなどの情報をお届けすることを目的に、「交通アメニティ」を創刊しました。

年代

2008

イメージキャラクター
エコちゃん、
モコちゃんが誕生



当財団をより身近に感じてもらうためにイメージキャラクターを募集したところ、なんと164点もの応募をいただきました。
当財団において選考を行い、地球環境をイメージできるよう、地球をモチーフにしたエコちゃんと、交通をイメージできるよう、乗り物をモチーフにしたモコちゃんが生れました。

2015

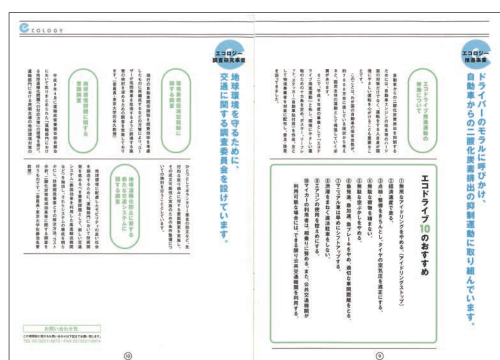
当財団の事業活動や、話題になったバリアフリー・環境対策の関連ニュースを深掘した「巻頭特集」をスタート

ECOMO 第60号



海外のバリアフリーや交通分野における環境活動の取り組みに関する情報収集と会議への参加の機会が増えました。COP、欧州モビリティ・マネジメント会議、TRANSED、ITS世界会議といった国際会議や、オリンピック・パラリンピックなど、当財団職員による参加レポートもお届けしています。
第60号では、平昌オリンピック・パラリンピック期間中の観客輸送や会場周辺のバリアフリーに関して、現地の状況調査レポートをお届けしました。

1998 誌名を「ECOMO」に変更



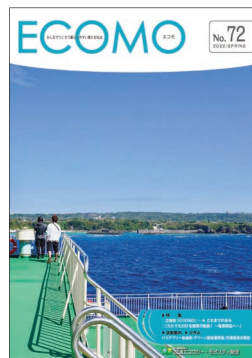
ECOMO 第1号

1997年にはCOP3が京都で開催され、先進国に対し二酸化炭素など温室効果ガス排出削減の数値目標を定めた国際的な取り決めである京都議定書が採択され、国際的にも積極的な地球環境問題への取り組みが求められるようになりました。当財団もこの情勢を鑑みて、1998年に運輸部門における地球環境問題への対応のための事業を追加し、当財団の名称を「交通エコロジー・モビリティ財団」に変えました。また、誌名も現在の「ECOMO」に変え、環境対策の推進に関する情報をお届けしました。

2022

船旅コラム、航空豆知識コラムなど、新しい連載企画も続々スタート

ECOMO 第72号



旅作家・離島アドバイザーの小林希さんによる、当財団の助成によってバリアフリー化された旅客船での「船旅コラム」⇒P4がスタートします。
また、元航空管制官の当財団職員による航空に関する時事のニュースと話題に合わせた「航空豆知識コラム」⇒P11もスタートします。
さらに、次号以降には、鉄道に関するコラムもスタート予定ですのでご期待ください。
これからも、当財団に關係する皆さまや興味のある皆さまとともに、「ECOMO」を育てていきたいと思っておりますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願い申し上げます。

2001 バリアフリー・環境対策の最前線レポート「エコモ隊がゆく！」がスタート

ECOMO 第11号



バリアフリーの分野では、2006年にさまざまな方が、より円滑に移動できるよう階段や段差を解消することを目指すため、公共交通機関を対象とした交通バリアフリー法と、大規模ビルなどを対象としたハートビル法を統合して改正・拡充したバリアフリー新法の成立、環境の分野では、2005年に京都議定書目標達成計画が策定され、バリアフリーと地球環境問題への取り組みに対して関心が高まっていました。
「ECOMO」でも、これらの取り組みに関する最前線の情報をお届けするために「エコモ隊」を立ち上げ、さまざまな団体・企業への取材や体験レポートなどをお届けしました。

「だれでも行ける魅惑の船旅！ ～奄美群島へ～」

取材・文 小林 希

与論島の美しい海に、干潮時だけ出現する幻の“百合ヶ浜”

だれもが心地よく滞在できる、 日本最長級の航路をもつ船の旅

午後6時、ふんわりと噴煙を立ち上げる桜島を眺めながら、鹿児島新港を出航した。乗船したのは、鹿児島本土と沖縄の那覇港間を運航するマリックスラインの新造船「クイーンコーラルクロス」。総距離は、離島航路では国内最長級の735kmで、奄美群島の奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島と沖縄の本部港に寄港する。奄美大島と徳之島は、2021年に世界自然遺産に登録された。

乗船は、船内までエレベーターとエスカレーターが設置されており、どんな人でも安心して移動ができる。新造船のデザインは、白とダークブラウンを基調に南西諸島らしい海を思わせる鮮やかな青をアクセントカラーに据えている。全体的に上質で落ち着いた雰囲気心地よい。案内所にはアロマディフューザーが置かれ、爽やかな香りが鼻に届いた。船のニオイに敏感な人にも、嬉しいサプライズだろう。

さっそくデッキに向かうと、扉部分の段差がなくなるよう配慮されていた。子供でも車椅子でもスムーズに出入りできる。みんなが思い思い外の景色を楽しめることは、幸せな船旅だなあと感じる。それこそ、私は船の最大の魅力は、船上から見る景色だと思っているからだ。

早朝、日が昇る瞬間を奄美大島の沖合で眺めることができた。雄大に横たわる島影を照らしていく太陽に、細胞がふつふつと沸き立つようなパワーをもらった。刻一刻と表情を変えていく空には、鱗のような雲が視界を覆うほどに広がり、肩の力がゆるゆると抜けていった。そして、奄美大島から徳之島、沖永良部島へと寄港するたびに、島の地形も海の色も異なることを知った。これほど開放感を覚える乗り物もないだろう。

船内散策だって、面白い。島の人たちにとって生活の足でもある船だからこそ、トイレやシャワールーム、客室など各所の配置や動線が非常にわかりやすく設計されている。また、ソフト面へのこだわりを見せる一つは、各客室の寝具。西川とコラボしたもの

で、マットも枕もふかふか。「動くホテル」と称されるのもよくわかる。

出港から約20時間、鹿児島島の最南端に位置する与論島で一泊しようと下船した。隆起珊瑚礁からなる島で、エメラルドグリーンの海に白い砂浜が広がる。亜熱帯の植物やハイビスカスの赤い花などが見られ、南国感が漂う。

南部の段丘上には、15世紀初めに築かれたと伝わる未完成の与論城跡がある。そこから海を隔てた約23km先に沖縄本島を望める。もともと沖縄本島と与論島は深い交流があり、物々交換などをしてきた歴史も長いという。いにしえから船を漕ぎ、往来していたそうだ。しかし太平洋戦争によって、昭和47年に沖縄が本土復帰を果たすまでは、その海上に国境があった。与論島ではのんびりと、そしてちょっぴりと戦争と平和を考える滞在となった。

翌日の午後2時10分、マルエーフェリーの「フェリー波之上」に乗船して、沖縄の那覇港へ向かう。栈橋から船内まで、足腰の強い人はタラップを登るようになっているが、不安な人はエレベーターで乗船させてもらえる。北欧風のおしゃれなデザインの船内は、客室も多様化しており、自分の体調や同行者との関係などで選ぶことができる。

デッキから沖縄本島北部を眺めた。「ああ、沖縄も島だなあ」と思うのは、船に乗らなければなかなか感じることはないと思う。

夜7時に那覇港に到着。長い長い、船旅だった。まるで海外旅行のような充足感がある。思い出されるのは、島々の自然と穏やかな潮騒、優しい潮風。そして、だれもが安心して滞在できる船の中。ただの移動手段とは到底思えないほど、旅の思い出に大きく刻まれたのは、船の上で過ごした時間だった。



与論島名物の「ヨロン駅」。鹿児島、与論、沖縄を結ぶ夢の線路として造られたモニュメント。

マリックスライン

鹿児島新港と沖縄那覇港間を運航し、奄美群島の島々と沖縄本部港へ寄港する。新造船クイーンコーラルクロスは2021年11月に就航したばかりで、「今までにない未来への起点となるような船」がデザイン設計のコンセプト。吹き抜けのロビーを起点として



新造船の「クイーンコーラルクロス」

3本の通路が貫き、使い勝手の基本に返った明快な配置と動線となっている。また、心地よさを追求したソフト面にも高いクオリティが感じられる。デザイナーは、数々の船舶をデザインした空間デザイナーの故・笠井統太氏。バリアフリー設備も整い、だれもが船旅できるよう配慮がなされている。



バリアフリー対応の2等室。カーペット敷に車椅子ごと上がれ、マットの横幅は通常の2等室より広く作られている。



バリアフリー対応のトイレで、オストメイト用設備もある。船内には、授乳室やメイクルームもあり、女性や子供連れも安心して滞在ができる。



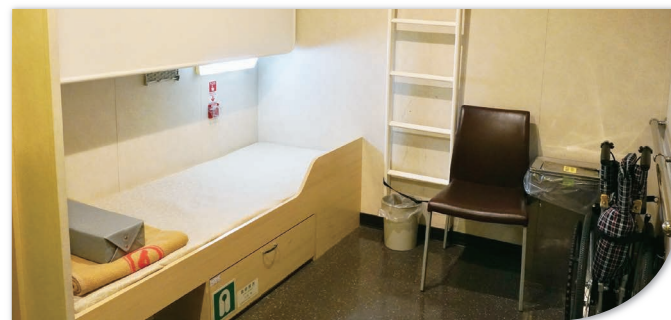
船内にはエレベーターとエスカレーターを2機ずつ設置。スムーズでストレスの少ない移動が可能。



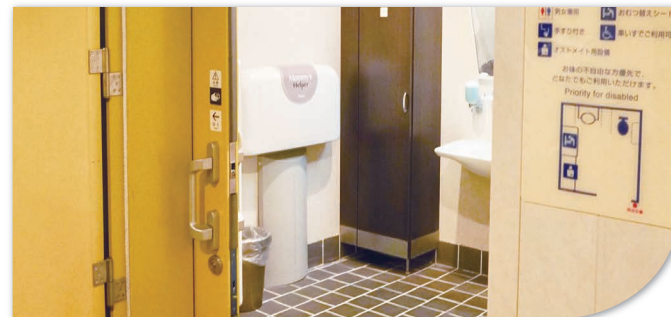
フェリー波之上

マルエーフェリー

マリックスラインと航路は全く同じで、鹿児島新港～奄美群島～沖縄本部港～沖縄那覇港を運航する。「フェリー波之上」は2012年9月に就航した。すっきりとした北欧風のデザインが印象的。レストランは24時間解放されており、のんびりとした時間が流れている。デッキが広く、外の景色を眺めたり体を伸ばしに行ったりと寛げる。エレベーターとエスカレーターがあり、バリアフリー設備も設置。



バリアフリー対応の2等寝台室。車椅子ごと入れる仕様で、二段ベッドの上段に同行者が滞在できる。個室なのでプライバシー空間が確保できる。



バリアフリー対応のトイレで、オストメイト用設備、おむつ替えシートなども設置されている。

2021年度
助成対象施設
エコモ財団
(公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団)
Supported by THE NIPPON
財団 FOUNDATION
私たちは、海上交通におけるバリアフリーを推進しています。

エコモ財団は、海上交通におけるバリアフリーを推進しており、助成対象施設にシールが貼られている。

※ 2022年度の募集については、P7を参照

障害当事者講師から学ぶ！交通サポートマネージャー研修を開催します

交通事業者職員向けのバリアフリー研修「交通サポートマネージャー研修」を開催します。昨年度はコロナ禍の影響を受け従来より実施回数を減らしていましたが、本年度は東京地区3回、関西地区2回の研修を実施します。

本研修は障害当事者が講師となり公共交通機関利用時の課題や利用しやすくするための対応の好事例などを講義します。また対応が難しい事例についてグループディスカッションを通じて望ましい対応を検討します。座学、介助実技、ディスカッションを通じて、障害当事者の生の声を聞き、具体的なコミュ

ニケーションの取り方を習得するとともに、バリアフリーに関する最新の知見も得られます。

感染防止対策のため受講定員を減らして実施予定です。研修の詳細は随時ウェブサイトでご案内しますので、お早めにお申し込みください。

[URL] <http://www.ecomo.or.jp/>

▶「バリアフリー推進事業」

→「交通サポートマネージャー研修」をクリック



障害当事者が加わったグループディスカッション



研修成果の発表の様子

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会後のレガシー活動

ー 共生社会ホストタウンサミット、心のバリアフリー推進事業 ー

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が昨年7月～9月に開催されました。この競技大会では「UD2020行動計画」が作成され、インクルーシブデザインに基づく共生社会の構築を目指し、様々な事業が推進されました。大会が終了した今、推進された事業を継続しレガシーとしていくための取り組みが日本財団の基金を活用して進められています。

1つ目は、「共生社会ホストタウンサミット」の開催です。パラアスリートを迎え入れる「共生社会ホストタウン」には全国105の自治体が登録し、事前合宿や市民との交流が予定されていました。新型コロナウイルス感染症の影響により見送らなければいけなかった自治体も多くあったようですが、オンラインの活用や感染対策の実施等により様々な取り組みが実施されました。その取り組みを全国の登録自治体でレガシーとして共有す

るために「共生社会ホストタウンサミット」が毎年開催されています。今年は下記の通り開催予定です。

開催日	2022年9月4日(日)
開催場所	シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 (三重県伊勢市)

※サミットのほか市民向けサイドイベントも開催予定。
※詳細は後日ホームページに掲載予定です。

2つ目は、「心のバリアフリー推進事業」です。共生社会ホストタウンで推進される共生社会の実現に向けた活動を支援するための事業で、大阪府大東市、秋田県大館市などが助成を受け、バリアフリー教室の開催や、バリアフリーマップ作成等に取り組んでいます。

海上交通バリアフリー施設整備助成の申請を開始します

当財団では、日本財団からの支援を受けて、海上交通におけるバリアフリー化の推進と旅客船を利用する高齢者・障害者等の移動円滑化のため、旅客船および旅客船ターミナルのバリアフリー化施設整備に対して助成を行います。

募集期間は、6月1日～7月31日まで。

主な助成対象施設は、エレベーター、バリアフリースイレ、バリアフリー客席、バリアフリースタップなど。

詳細については、下記URLのホームページでご確認ください。



海上交通バリアフリー施設整備助成制度：

<http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/barifuri-ship/index.html>



バリアフリー客席(国際両備フェリー(株):香川県高松市)

公共交通事業者向け手話教室(首都圏・関西地区)を開催します

当財団では、公共交通機関における聴覚に障害のある方の移動の円滑化と障害の理解を図るため、交通事業者向けの手話教室を首都圏と関西地区で開催します。

首都圏では、新型コロナウイルスに対応し、初めてオンライン形式により5月26日～7月28日まで全10回実施します。関西では、例年どおり、集合形式により5月18日～10月26日まで全24回実施します。



2021年度 手話教室の様子



2022年度 手話教室開講式(関西)

2025年イベントに向けた取り組みをはじめます

当財団では、2025年に開催される大阪・関西万博に向けて、交通バリアフリーに関する取り組みを公益財団法人関西交通経済研究センターと共同して実施することになりました。これまで交通バリアフリーの進展に対してご指導、ご協力をいただいている三星昭宏近畿大学名誉教授や新田次次大阪大学名誉教授をはじめとする関西地区の先生方並びに障害者団体の方々と検討を行い、具体的な取り組み内容を決めていきます。

なお、今後の取り組みについては、次号以降の広報誌において、報告していきます。

★参考情報

2022年3月31日には、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会より、施設整備に関するユニバーサルデザインガイドラインの改定版が発表されております。

<https://www.expo2025.or.jp/news/news-20220331/>

第44回EST創発セミナーin黒部〔北陸信越〕

～北陸信越地方の社員通勤変革に向けて～を開催しました

第12回EST交通環境大賞において、YKK株式会社による「富山県黒部市における社員通勤変革への挑戦」は大賞【国土交通大臣賞】を受賞しました。そこで、この受賞内容を紹介するセミナーを2022年3月20日(日)にホテルアクア黒部で開催しました。

当日は、午前中に現地見学会を行った後、加藤 博和 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授、中川 大 富山大学 副学長から、ESTに関する基調講演や、富山県から始まる新たな交通政策を考える特別講演をいただきました。その後、YKK株式会社から受賞内容に関する取組紹介をいただきました。最後に、中川 大 富山大学副学長のコーディネートで「北陸信越地方の社員通勤変革に向けて」をテーマに意見交換を行いました。



意見交換

当日の様子をエコモ財団のYouTubeチャンネルにて公開予定です。ぜひご覧ください。
<http://www.estfukyu.jp/sohatsu69.html>
 (ページ中程に視聴URLを掲載予定)



第45回EST創発セミナーin小山〔関東〕

～公共交通とまちづくりの未来～を開催しました

第12回EST交通環境大賞において、「小山市コミュニティバス『おーバス』利用促進プロジェクト」が優秀賞を受賞しました。そこで、この受賞内容を紹介するセミナーを2022年3月30日(水)に小山市立生涯学習センターで開催しました。

当日は、午前中に現地見学会を行った後、加藤 博和 名古屋大学大学院 環境学研究科 教授、谷口 綾子 筑波大学システム情報系 教授から、ESTやモビリティマネジメントに関する講演をいただきました。その後、小山市から受賞内容に関する取組紹介をいただきました。最後に、谷口 綾子 筑波大学 教授のコーディネートで「公共交通とまちづくりの未来」をテーマに意見交換を行いました。



現地見学会

当日の様子をエコモ財団のYouTubeチャンネルにて公開予定です。ぜひご覧ください。
<http://www.estfukyu.jp/sohatsu71.html>
 (ページ中程に視聴URLを掲載予定)



エコプロ2021への出展

エコプロ展は、環境配慮型製品・サービスの普及を目的に、1999年から東京ビッグサイトで開催されている環境総合展示会であり、ビジネスマンや行政担当者、一般消費者が来場する国内有数の環境イベントです。



当財団の出展風景

エコモ財団では、同展示会に引き続き出展し、運輸部門における地球温暖化問題の現状やその対策、財団活動紹介をビデオ放映とパネル展示などにより行いました。3日間の会期中には、1,800名を超える多くの方に来訪いただきました。



令和3年度モビリティ・マネジメント教育支援自治体の取り組み

当財団では、モビリティ・マネジメント教育(交通環境学習)の普及を目指し、自治体や小中・高等学校に対する支援、事例データベースの構築などの普及活動に取り組んでいます。

これまでに13の自治体と107校に対して支援を行っており、令和3年度で青森県八戸市と沖縄県浦添市への支援が終了しました。

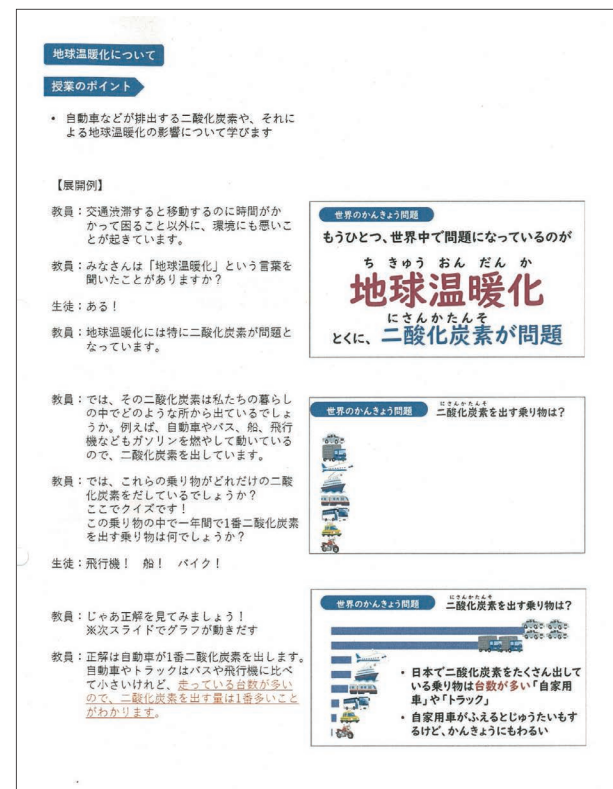
<支援自治体の取り組み(令和3年度)>

八戸市 動画教材を新たに追加するとともに、1校において授業実践を行いました。さらに、これまでに作成した教材などを掲載したポータルサイトを立ち上げました。

浦添市 これまでに作成した教材やICT教材、電子版交通すごろくの見直しを行うとともに、教員用教本を作成し、1校において実践授業を行いました。



動画(八戸市)



教本の一部(浦添市)

現在、新たに支援する1自治体の募集を行っています。さらに学校への支援では、例年通り支援校の募集も行っています。詳細はモビリティ・マネジメント教育ポータルサイト <http://mm-education.jp> にてご確認ください。ご応募お待ちしております。

<自治体支援制度>

募集期限	令和4年6月12日(日)当日消印有効
助成期間	原則3年間(1年ごとに申請が必要)
助成額	1年あたり250万円
募集件数	1件
注意事項	教育委員会との連名での申請が必要です

http://mm-education.jp/jitai_sien.html



<学校支援制度>

募集期限	令和4年6月12日(日)当日消印有効
助成期間	令和5年3月26日
助成額	15万円
募集件数	15校程度
注意事項	学校長の承認を得ていることが必要です

http://mm-education.jp/gakkou_sien.html



運輸事業におけるグリーン経営認証制度を実施しています



グリーン経営とは、環境マネジメントシステムの一つであり、企業の社会的責任として、環境問題にも積極的に取り組むためのツールです。

国土交通省は、この認証制度を運輸部門における実効性のある環境対策として評価し、国の政策(国土交通省「環境行動計画2014～2021」)の取り組みの一つとして取り上げています。

グリーン経営認証取得による効果ー2020年版ーを公表

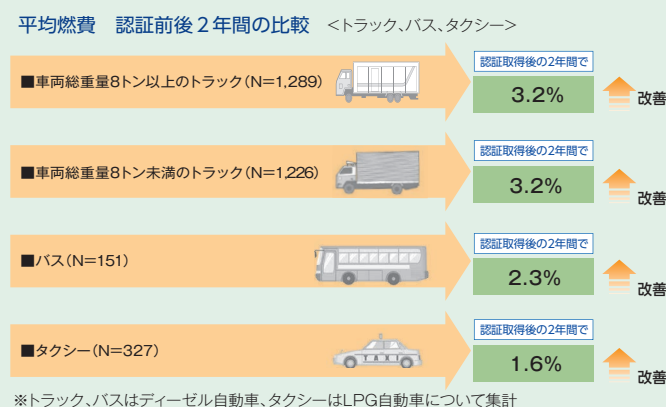
2006年度よりグリーン経営認証取得による具体的効果を検討し、公表してきましたが、2020年版のとりまとめ結果を2022年4月に公表しました。

その結果各図のとおり、トラック、バス、タクシーでは取得2年後に1.6～3.2%燃費が向上し、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運では取得2年後に1.3～6.0%CO₂排出原単位が改善されていることがわかりました。

さらに、認証取得後1年目の走行距離あたりの交通事故件数は、前年比でトラック25.9%、バス20.4%、タクシー7.0%減少し、また、走行距離あたりの車両故障件数は、前年比でトラック21.1%、バス3.9%、タクシー15.9%減少しました。

【グリーン経営認証制度の概要】

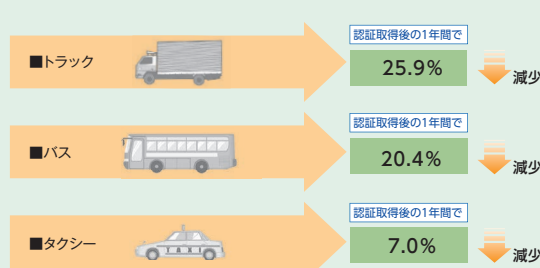
- ・認証機関:当財団
- ・対象業種:トラック、バス、タクシー、倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運の7業種
- ・登録開始年月:2003年10月<トラック運送事業>
2004年4月<バス事業、タクシー事業>
2005年7月<倉庫業、港湾運送事業、旅客船事業、内航海運業>



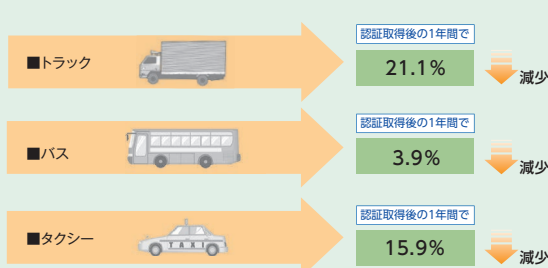
CO₂排出原単位 認証前後2年間の比較 <倉庫、港湾運送、旅客船、内航海運>



交通事故件数 認証前後の比較 <トラック、バス、タクシー>



車両故障件数 認証前後の比較 <トラック、バス、タクシー>



なお、集計データの詳細やその他の車両故障件数の変化などは、グリーン経営専用ホームページ(<https://www.green-m.jp/>)掲載資料をご参照ください。

東京国際空港の新飛行経路について

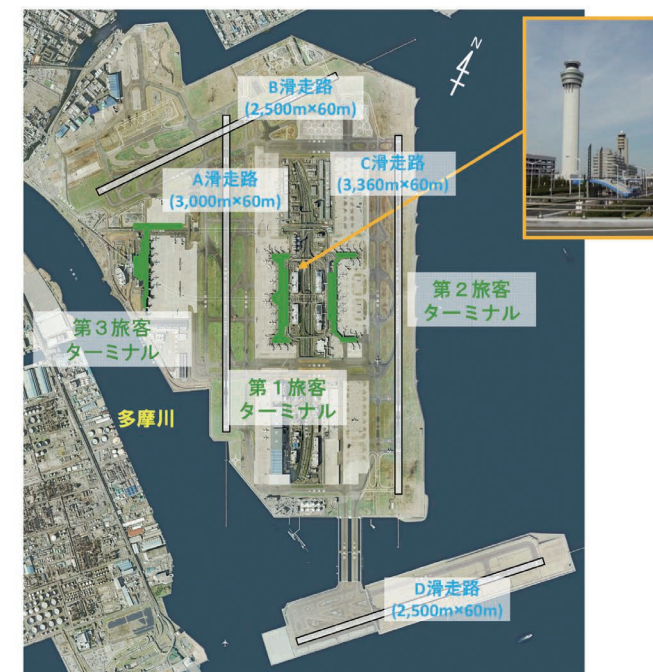
今や当たり前前の交通手段になっている飛行機ですが、航空に関するニュースもよく取り上げられています。そんな航空に関する豆知識、いわゆるトリビアを、時事のニュースや話題に合わせながら、元航空管制官の当財団職員がほんの少しご紹介します。

東京国際空港(羽田空港)は、1931年8月25日に東京飛行場として開港しました。都心から15km南に位置し、面積は、1,516haこれは、渋谷区(1,511ha)と同等の広さです。

滑走路は、4本あり、東・西・南・北に配置されています。A滑走路(3,000m)の長さは、JR東京駅からJR浜松町駅間に相当します。管制塔の高さは、115.7mあります。

羽田空港では、風向きにより異なる飛行経路で運用されています。

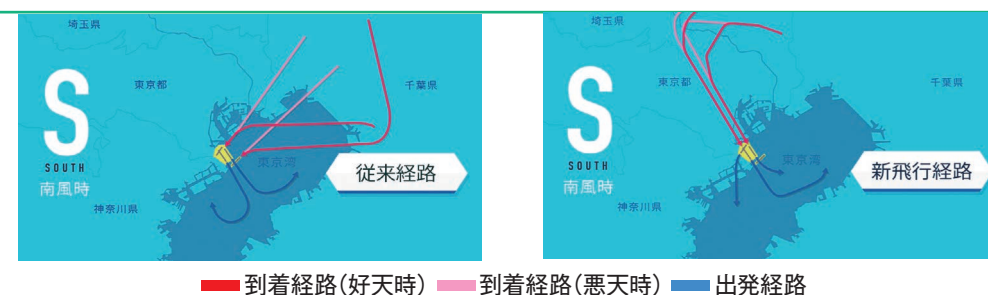
2020年3月29日からの新しい飛行経路は、国際線のニーズが高い時間帯に限り運用され、1時間の処理機数が80機(出発40機、到着40機)から88機(出発44機、到着44機)となり、増便が可能となりました。それ以外の時間帯はこれまでと同じ飛行経路で運用されています。



出典:国土交通省ウェブサイト
<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/about/>

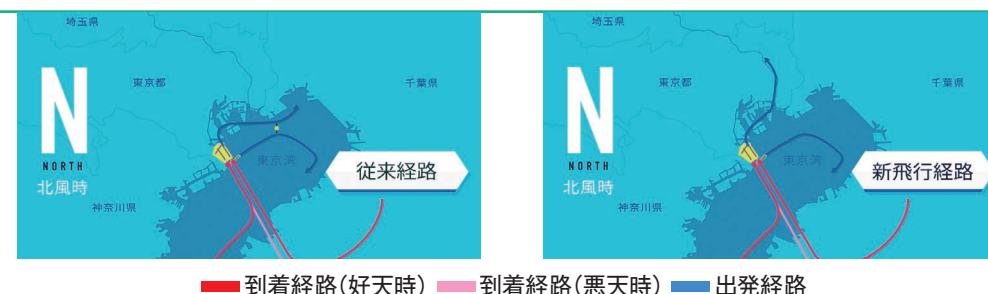
南風の場合

年間約4割吹くとされている南風時は、15時～19時のうち約3時間程度運用しています。

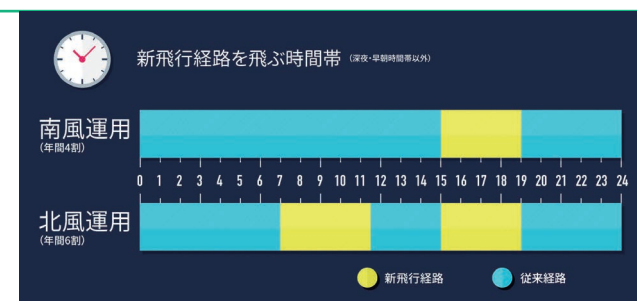


北風の場合

年間約6割吹くとされている北風時は、7時～11時半の間と、15時～19時のうち約3時間程度運用しています。



新飛行経路を飛ぶ時間帯



出典:国土交通省ウェブサイト
<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/action/>